

平成21年5月25日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18310165
 研究課題名（和文）
 イスラム教圏東南アジアにおける学知の制度化と実践に関する総合的研究
 研究課題名（英文）
 Institutionalization and practice of knowledge in Islamized Southeast Asia
 研究代表者
 山本 博之（YAMAMOTO Hiroyuki）
 京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
 研究者番号：80334308

研究成果の概要：

民族や宗教共同体などの人間集団の分類概念を例にとり、外来の概念が東南アジアで受容され、イスラム教圏東南アジアの各地に伝播する過程で、在地の公権力との関係においてさまざまな形で受容されていった様子を明らかにした。また、具体的な事例研究として、2004年のインドネシア・アチェ州の津波被災および2008年のマレーシアの総選挙を例にとり、社会秩序再編の過程で情報や「知」がどのような役割を果たし、その際に学知に対抗する「知」がどのように作りだされ、どのような影響を及ぼしえたのかを明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2006年度 | 4,900,000 | 0 | 4,900,000 |
| 2007年度 | 4,600,000 | 1,380,000 | 5,980,000 |
| 2008年度 | 4,800,000 | 1,440,000 | 6,240,000 |
| 総計 | 14,300,000 | 2,820,000 | 17,120,000 |

研究分野：イスラム教圏東南アジアの民族と政治

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：東南アジア、イスラム教、社会秩序、

1. 研究開始当初の背景

制度化された知（学知）は公権力の一端を担うのか、それとも公権力を相対化する役割を担うのか。この問いに関連して、公権力によらず制度化される学知を考えることによって、複数の公権力による支配領域にまたがって存在する学知を想定することができ、公権力との関係において自立的でありうる学知がそれぞれの国や地域において公権力とどのような関係を切り結ぶのかという見方が成り立つ。

2. 研究の目的

東南アジアにおけるイスラム教に基づく知

および教育（以下、「イスラム的な知」）の制度化と、その公権力との関係を実態的に明らかにする。東南アジアのイスラム的な知は、国・地域ごとに多様性を見せる一方、移住者、混血者、知識人やその著作物・表現活動を通じて域内で相互に参照しあい、影響しあう状況が見られる。このように、東南アジアにおいて国家や地域の枠を超えた関係性が形成・維持され、国境を越えて「制度化」されているイスラム的な知が、それぞれの国・地域で公権力がどのような関係を結びうるかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 外来の知の体系である「イスラミックな知」が東南アジアにもたらされ、東南アジア域内の各地に伝えられ、在地社会に受容されていった過程を、特に知を媒介した人物や著作物に焦点を当てて解明する。

(2) 植民地化およびそれに続く国民国家化の過程で国別に知が制度化され、その中にイスラミックな知が組み込まれ、国別・地域別の発展を遂げたこと、また、イスラミックな知が相互に参照しあい、影響しあっていることで、イスラミックな知に国境を越えたまとまりが存在している状況を実態的に解明する。

(3) 国民国家が成立した後のイスラム教圏東南アジアの各地域社会で、社会生活上のさまざまな実践においてイスラミックな知がどのような役割を演じているかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 2007年5月に国際シンポジウム「バンサとウンマ：東南アジア・イスラム地域における人間集団分類概念の比較研究」を実施し、成果の一部を発表した。

① 民族や宗教共同体などの人間分類概念が東南アジアにもたらされ、これらの概念と結びついたムラユ（マレー人）概念が、マラッカ海峡両岸からマラヤ半島・シンガポールへ、さらにマレー語圏（インドネシア、ボルネオ、タイ南部）へ、さらに非マレー語のイスラム教圏東南アジア（フィリピン南部、インドシナ）へと伝えられる過程で、各地の公権力との関係と対応する形で概念が変容しながら受容されていった様子を明らかにした。

② かつて支配者の家系を指していたムラユという人間集団の分類概念は、マレー・イスラム圏に概念が伝播する過程でマレー語やイスラム教を受け入れた人びとを一般に示す概念となった。マラヤおよびシンガポールでは在地のムスリム・コミュニティのなかでアラブ系やインド系が主流であることを嫌ったマレー人がマレー民族概念を用いることで自立を確保しようとした。この概念がボルネオなどマレー人が少数派である地域にもたらされると、在地のムスリム・コミュニティのなかで主流であるマレー人に対して在地ムスリムが民族性（バンサ）を持ち出すことで自立を確保しようとした。フィリピン南部などの非マレー語圏では、マレー語経由ではなくアラビア語経由でイスラミックな知にアプローチしようとするのが明らかにされた。

(2) 大規模自然災害などに直面して社会秩序が一時的に失われた状態における秩序構築において情報や「知」がどのような役割を果たすのかに関してインドネシア・アチェの津波被災地の事例をもとに検討した。ながく紛

争下において外部世界との関係を制限されていたアチェが、被災を契機に国際社会に開かれ、国際機関・非政府組織（NGO）や各国政府・民間団体・個人が支援に訪れる中で、トルコをはじめとするイスラム諸国との関係が再構築されている状況が明らかにされた。

(3) 2008年のマレーシアの総選挙を事例に、独立後の国民国家における政治秩序の再編とそこにおける情報や「知」のあり方を検討した。新聞・テレビなどのマスメディアが政府の影響を受けるのに対してインターネットを通じた対抗的な知の制度構築がなされている様子が報告された。また、学知の担い手である大学教員等が学会活動や学術集会を通じて対抗的な知のあり方を提示する様子が報告された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7件）

- ① 山本博之、「2008年総選挙後のマレーシア政治の行方：プミプトラ政策、イスラム国家、州の機能」、『季刊マレーシアレポート』、2巻1号、2009年、5-20ページ、査読なし。
- ② 西芳実、「2006年アチェ統治法の意義と展望：マレー世界のリージョナリズム」、『地域研究』、8巻1号、2008年、116-127ページ、査読なし。
- ③ 山本博之、「プラナカン性とリージョナリズム：マレーシア・サバ州の事例から」、『地域研究』、8巻1号、2008年、49-66ページ、査読なし。
- ④ 新井和広、「ハドドラウトーインド洋を渡ったアラブの故郷」、『自然と文化そしてことば 04 インド洋海域世界一人とモノの移動』、2008年、88-97ページ、査読なし。
- ⑤ 新井和広、「東南アジアにおけるアラブの歴史」、『歴史と地理』、609号、2007年、57-60ページ、査読なし。
- ⑥ Tokoro Ikuya, "Border Crossing and Politics of Religion in Sulu." *Militant Islam in Southeast Asia (Asian Cultural Studies 15: Special Issue)*, 2006, pp. 121-136. 査読あり。
- ⑦ 床呂郁哉、「「海賊鎮圧」から「対テロ戦争」へ：欧米の東南アジア関与における「長い持続」」、『軍縮地球市民』、7号、2007年、70-75ページ、査読なし。

〔学会発表〕（計 11件）

- ① YAMAMOTO Hiroyuki, *Jawi sebagai Pembatas, Jawi sebagai Penghubung, Persidangan Bahasa Melayu dalam Perspektif*

Antarabangsa Tahun 2008, Hotel Holiday Villa Subang Jaya, Malaysia, 20 November, 2008.

- ② YAMAMOTO Hiroyuki, Jawi Publication Network and the Ideas of Political Communities among Malay-Speaking Muslims in the 1950s, IAS-AEI International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies: Islamic Scholarship across Cultures and Continents, Nikko Hotel, Malaysia, 23 November, 2008.
- ③ SUGAHARA Yumi, Networks of publishing business for Islamic textbooks in Southeast Asia and the world of Jawi, IAS-AEI International Conference: New Horizons in Islamic Area Studies: Islamic Scholarship across Cultures and Continents, Nikko Hotel, Malaysia, 23 November, 2008.
- ④ 新井和広, 「中東社会における公正（アドル）概念」、日本マレーシア研究会第17回研究大会、獨協大学、2008年12月6日。
- ⑤ 西尾寛治, 「近世のマレー世界における公正（アディル）概念」、日本マレーシア研究会第17回研究大会、獨協大学、2008年12月6日。
- ⑥ 西芳実, 「インドネシア映画が描くバリ島爆弾テロ事件—『楽園への長い道 (Long Road to Heaven)』から—」日本マレーシア研究会第17回研究大会、獨協大学、2008年12月6日。
- ⑦ 西芳実, 「インドネシア・スマトラ沖地震津波—紛争下の人道支援と災害対応—」アジア政経学会2008年度全国大会共通論題、神戸学院大学、2008年10月12日。
- ⑧ SUGAHARA Yumi, Islamization in the Nineteenth Century Java: An Analysis of Ahmad Rifa'i's Texts, International Symposium "Islam for Social Justice and Sustainability: New Perspectives on Islamism and Pluralism in Indonesia", Kyodai-kaikan, 16 September, 2008.
- ⑨ 菅原由美, 「イスラーム出版業の展開に見るインド洋ネットワーク」、第53回国際東方学会議シンポジウムI「近代における東南アジアのイスラームとインド洋ネットワーク」、日本教育会館、2008年5月16日。
- ⑩ 西芳実, 「ダウド・ブルエとインドネシア共和国独立闘争—脱植民地化期アチェにおけるイスラーム教指導者の役割」、東南アジア学会第78回研究大会、立教大学、2007年12月9日。
- ⑪ 山本博之 「マレーシアの建国過程におけるプラナカンの役割—サバのマレーシア参加の事例から」、東南アジア学会第78回研

究大会、立教大学、2007年12月9日。

〔図書〕(計 9件)

- ① 山本博之編、「「民族の政治」は終わったのか?:2008年マレーシア総選挙の現地報告と分析」、日本マレーシア研究会、2008年、186ページ。
- ② 山本博之、「橋としてのジャウィ、壁としてのジャウィ:東南アジア・ムスリムの社会と言語」、佐藤次高・岡田恵美子編著『イスラーム世界のことばと文化』成文堂、2008年、201-220ページ。
- ③ 青山和佳・受田宏之、「貧しきマイノリティの発見—アイデンティティを資源化する」、佐藤仁編『資源を見る眼—現場からの分配論』東信堂、2008年、77-99ページ。
- ④ KAWASHIMA Midori, ARAI, Kazuhiro & YAMAMOTO, Hiroyuki compiled. Proceedings of the Symposium on Bangsa and Umma; A Comparative Study of People-Grouping Concepts in the Islamic Areas of Southeast Asia, May 12, 13 & 19, 2007, Tokyo and Kyoto. 220pages.
- ⑤ OMAR Farouk & YAMAMOTO, Hiroyuki eds. CIAS Discussion Paper No.3, Islam at the Margins: The Muslims of Indochina. 96pages.
- ⑥ 服部美奈、「インドネシア:道徳的価値と知識習得の調和を目指して」池田充裕・山田千明編著『アジアの就学前教育—幼児教育の制度・カリキュラム・実践』明石書店、2006年、183-205ページ。
- ⑦ 服部美奈、「インドネシアの教育計画」、山内乾史・杉本均編著『現代アジアの教育計画 下』学文社、2006年、155-170ページ。
- ⑧ 服部美奈、「宗教」、北原淳ほか編著(北川隆吉監修)『地域研究の課題と方法—アジア・アフリカ社会研究入門(実証編)』文化書房博文社、2006年、271-287ページ。
- ⑨ 富沢寿勇、「マレーシアのナショナリズムとその克服へ向けた文化戦略」、竹内宏・村松岐夫・渡辺利夫(編)『徹底検証 東アジア』勁草書房、2006年、112-123ページ。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 博之 (YAMAMOTO Hiroyuki)
京都大学: 地域研究統合情報センター・准教授
研究者番号: 80334308

(2) 研究分担者

富沢 寿勇 (TOMIZAWA Hisao)
静岡県立大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 70180164

菅原 由美 (SUGAHARA Yumi)
天理大学・国際文化学部・講師
研究者番号：80376821

西 芳実 (NISHI Yoshimi)
東京大学・総合文化研究科・助教
研究者番号：30431779

(3) 連携研究者

川島 緑 (KAWASHIMA Midori)
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：50264700

西尾 寛治 (NISHIO Kanji)
東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：90414078

中田 考 (NAKATA Kou)
同志者大学・神学部・教授
研究者番号：40274146

服部 美奈 (HATTORI Mina)
名古屋大学・発達教育科学研究科・准教授
研究者番号：30298442

青山 和佳 (AOYAMA Waka)
日本大学・生物資源科学部・准教授
研究者番号：90334218

床呂 郁哉 (TOKORO Ikuya)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：90272476

河野 毅 (Kouno Takeshi)
政策研究大学・政策研究科・助教授
研究者番号：10361883

新井 和広 (ARAI Kazuhiro)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助手
研究者番号：60397007

石井 正子 (ISHII Masako)
大阪大学・グローバル・コラボレーションセンター・准教授
研究者番号：40353453